

蘭越町への政策提言

告73

第2弾

問題の根源は 選定の事前情報開示が〇の公共事業

前回の政策提言では、チセヌプリスキー場の売却方法の問題を指摘しました。今回の指摘は、雪秩父が日帰り温泉施設への建て替えが検討されていた頃、星野リゾートが提案した温泉リゾート（建物だけで20億円の投資）を、町長らが断った問題です。共通する問題は、町民に対し、その選定プロセスがまともに公開されていないことだ。公共事業の発注や公有財産の処分を決めるとき、町と町議会そして町民がどのように関わるべきなのか、倶知安町とニセコ町の事例と比較しながら、考えてほしい。

公共事業の選定と発注の仕方を近隣自治体と比較

ニセコ町

ニセコ町は、役場新庁舎基本プランの選定にあたり、町民講座・ワークショップ・パブリックコメントを開催し、町民の意見を求めた。また、事業者6社による基本設計のプロポーザルヒアリングは、一般公開とした。さらに、入札においては、すべての入札業者名と集計結果を公表した。

倶知安町

倶知安町は、役場新庁舎基本計画の策定にあたり、2度のワークショップをもって、町民の意見を求めた。また、プロポーザル公募企業の提案に対して、公開プレゼンテーションを行った。さらに、採択された基本計画については、パブリックコメントを募集・公開した。

選定の事前情報開示がゼロの蘭越町

チセヌプリスキー場と雪秩父の運営方法が検討されたはずの「国民宿舎雪秩父改築等検討委員」の議事録はあきれるほどに内容が乏しく、5年の保存期間を超えたものは次々に廃棄された。議事録もプロポーザルの選定資料も、一切公開されておらず、条例に基づいて開示請求せざるを得なかった。

開示請求を受けた蘭越町は、その文書を黒塗りすることによって、選定理由を判別不能とした。審査請求後、半年ほど待たされた後、ようやく、黒塗りで隠された箇所の一部が公開された。



やはり透明性に欠ける蘭越町議会

裏面に示す星野リゾートの件において、蘭越町は、町議員全員協議会での意見を理由に、町民が星野リゾートより町営温泉を望んでいるかのような断り文を作成した。協議会の記録を議会に求めても、そもそも記録を取っていないのだそうだ。町長が「総務常任委員会で検討することになっている」との記録があるので、委員会記録を求めると、事務局は5年の保存期限を理由に廃棄したとのこと。

透明性も品格も欠けた委員会と町議会議員

チセヌプリスキー場の売却に関する私の陳情は、常任委員会に付託された。委員会が私が議員に説明する機会を与えてくれるというので、私は透明性をゼロにさせないための要求を行った。しかし、委員会の公開・録画・録音のすべてが拒否された。

陳情説明後の質疑応答において、N議員は、「無責任」「非難中傷」と陳情内容を批判した。また、「告発しほうがいい」「裁判所に行ったほうがいい」「告発状を出せ」などと、陳情の適格性を否定し、司法機関に行くことを陳情人に求めた。委員長は、オブザーバーであるN議員が「告発せよ」と繰り返すばかりの『自己主張』を容認する一方、陳述人に対しては「議論する場所ではない」と反論を遮った。



詳しくはwebで

苦渋の告発報道（否定は簡単、立証は困難）

多くの人が特定個人の批判を好まないことを私は知っています。しかし、法の抑止力は、『事実』が公開・報道されなければ、発動しません。裏を返せば、『事実』が公開・報道されるなら、抑止力が生まれるものだと思います。そして、私がネットや新聞折込に、知り得た事実を公開するのは、抑止力を期待してのことです。なお、公人の公務上における不正疑惑は、実名報道が基本です。

また、私は、刑事司法の場で白黒が決まった後の見せしめで得られる秩序よりも、事実が一定の公然性を持つことによる抑止効果で生じる秩序のほうが、成熟した社会にとって望ましく、かつ、合理的であると信じています。少なくとも、町民の理解と批判の下で、公正で民主的な行政を実現させるためには、行政の透明化が必須であることについて、議論の余地はありません。

SOSEI
COUNCIL

創世カウンスル

創世カウンスルは、政治資金規正法第6条第1項の規定により、北海道選挙管理委員会を経て、総務大臣に届出済の政治団体であり、中央集権システムの構造的な問題の提起、民主的な地方自治の実現のための政策提言を行う政治団体で、野村かずやの後援会としての機能を有する。



野村 かずや

町全
民力

幻と消えた蘭越町の星野リゾート



詳しくは web で
rural-escape.com

2021年初夏、白老町「界 ポロト」のオープン予定がニュースとなっている。星野リゾートは、白老の開発プロジェクトが始まる数年前、蘭越町に温泉ホテル「界（大湯沼）」のプロジェクトを提案していた。しかし残念なことに、蘭越町長、副町長、総務課長らは、星野リゾートの提案を断った。問題なのは、町長らが、星野リゾートの提案を町民に公表せず断ったにもかかわらず、まるで町民の意思であるかのような断り文句を使っていることだ。



- 建物に20億円の予算
- 外構工事の予算は別途
- スキー場は、オペレーションだけなら運営可能
- 地域雇用をすすめ、メディアに売り込むなどして地元観光や地域活性化に貢献する。



星野リゾート白老ポロト

白老町は、2017年に旧ポロト温泉の後継施設の運営事業者を公募。3社が応募し、星野リゾートが優先交渉権者に選定された。2018年に町有地の売買契約と「ポロト地区宿泊施設等整備に関するパートナーシップ協定書」が結ばれた。白老町の議事録によれば、協定書は「集客や回遊性の相乗効果を、町と星野グループと一体となって町の発展に取り組むことを協定したもの」とのこと。温泉棟は2階建てで、1階が日帰り客用、2階が宿泊者用の入浴施設。日帰り入浴は男女各二つの浴槽を備え、利用料金は、一般で1000円程度、町民は400円程度の予定。

蘭越町が星野リゾートの提案を断る経緯

星野リゾートと蘭越町の話し合いは4回実施され、内2回は星野佳路社長も同席した。星野社長は、地道な積み重ねを100年やってきた会社であり、集客して収益を上げて、それを継続していくことが星野リゾートの使命との認識を示した。また、星野リゾートは、投機をしたことはなく、事業スタイルは、長い時間をかけて運営することが目的として、蘭越町が提案を受け入れてくれることを熱望した。

星野社長は蘭越町への進出を熱望した

蘭越町の町長・副町長・総務課長は星野提案を評価していない町長・副町長らは、議会や町民の判断を強調するばかりで、星野リゾートの計画そのものに評価をしていない。その一方、ことさら星野リゾートが事業を中断することへの懸念を示し、そのための保証金や裁判の話など、穏当さに欠ける話しを持ち出した。さらに、中断となれば「(町長は議長に)首をすげ替えなければならないほどの町政になる」と、町長自身の責任が問われるリスクをアピールした。

そして蘭越町が選択した施設
蘭越町は、日帰り入浴施設の設計をプロポーザル方式で公募した。応募はたった1社であったが、蘭越町はその1社と契約した。つづく工事入札も、その会社が落札した。なお、その会社は、同時期に蘭越町から消防署の建て替え工事も受注している。2016年、日帰り温泉施設「交流促進センター 雪秩父」がオープンした。しかしながら、露天風呂の一部は閉鎖されたまま、撤去されずに廃墟然とした無残な姿をさらしている。町によれば、湯量と施設管理面の問題で閉鎖し、再開することはない、という。撤去しないのは予算がなくなったから、とのこと。



撤去されずに廃墟然とした姿をさらす露天風呂 2021年6月28日撮影

4階				客室
3階				客室
2階(エントランスレベル)	食事場	エントランス・ロビーラウンジ		客室
1階	温泉室など	大湯沼(内湯)	SPA	温泉湯船
地下1階	新設露天風呂	既存露天風呂		

町長らは町営温泉にこだわり、町民に公にせず提案を断った
当時の町長らは、町営温泉の話しを進めていることを理由として、星野リゾートの提案を公にしなかった。そして、一方的に提案を断る文書を星野リゾートに送付した。

星野リゾートへのお断り文書



2013年6月27日付けの起案書には、次の理由が記されている。6月24日に開催されました町議会全員協議会においていただいた意見等を参考に検討した結果、雪秩父については今後とも町で運営していくこととし、別紙のとおり(株)星野リゾートへは文書で町の意向を回答してよろしいか伺います。